

ラ フォレ セ ラ ヴィ —森こそ命—



La Forêt, C'est la Vie!



ブルキナファソのタカバングウ村。雨季になって、村のそばを通る季節河川に水が入って来た。川が氾濫して村の周りは水浸しになったが、今日も女性たちはいつものように穀物を搗く。

去る 10 月、ブルキナファソにおける次期プロジェクトの可能性を探るため、約 3 週間の形成調査に行って来ました。ブルキナファソは実に 7 年ぶりの訪問になります。

最初に訪れた 1993 年には、近隣諸国ではあり得ないほどの治安の良さに驚かされたものです。テレビでは「結婚式には改良カマドを贈りましょう」という CM が流れ、街のあちこちに「開発か死か、我々は勝つ！」と書かれた横断幕が掲げられていました。首都ワガドゥグを走る自転車のあまりの多さに驚いている私に、ある政府関係者が笑いながら言いました。「金がなければ自転車に乗る。少し金が貯まったらバイクを買う。いっぱい金が貯まったら車を買う。俺たちは他人の金はアテにしない」

こうした体験は、ブルキナファソの人々の意識の高さを強く私に印象付けました。もちろん全てを鵜呑みに信じたわけではありませんが、それまでどちらかという援助慣れした国で活動することが多かった私にとっては、こうした光景や言葉が本当に新鮮に見え、聞こえたのです。そして 6 年後の 1999 年、再びワガドゥグを訪れた私は、今度は自転車にとって代わったバイクの多さに驚かされたのでした。

さて、7 年ぶりのブルキナファソです。期待と不安に包まれながらワガドゥグ空港を出た私の目の前に現れたのは、なんと交通渋滞を引き起こすほどの圧倒的な数の車でした。一般車はもちろんバスやタクシー、商用車や運搬車、政府の公用車も支援団体の車輛も行き交っています。私は思わず「本当に車まで行き着いた」ブルキナファソの人々に拍手を送ったのでした。

(緑のサヘル事務局長 菅川拓也)

緑のサヘル 2006年を振り返って



緑のサヘル 代表理事 岡本敏樹

世間では良く「来年のことを話すと鬼が笑う」と言います。ですから、あまり早い時期に1年を振り返るのも、「まだ早い」と怒られてしまいそうな気がします。しかし、来年に向けた備えという意味で行うのであれば、鬼もきっと許してくれることなのでしょう。

さて、今年は「砂漠と砂漠化年」でした。日本でもさまざまな講演会やパネルディスカッションが開催され、緑のサヘルも積極的に参加しました。いくつかのイベントに参加してみて感じたのですが、このような場で話し合われる内容が環境問題、しかも地球規模の問題としてのみ扱われており、論点が非常に漠然としたものになっていました。砂漠化が「問題」として浮かび上がってくる時、そこには環境だけではなく、必ず「人間の生活」が意識されています。この点を見逃すと、多くの方々が砂漠化は自分とは疎遠なものと感じてしまうのではないのでしょうか。

ブルキナファソでは、住民が主体となって取り組む環境改善事業が進められています。住民自身による問題発掘から始まり、その解決方法の選択、村内での試験的な取り組みと、文字通り住民の意見や意欲を主体としたこの環境省からの委託事業は、その手法や内容だけではなく、緑のサヘルと村との関係のあり方について見つめ直す示唆に富む事業となっています。今年度が最終年度ですが、ここで得た経験を、ブルキナファソでの次の展開に活かしたいと考えています。

チャドで行っている UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）とのパートナー事業であるスーダン難民支援事業は、チャドの政治・治安状況の不安定さを背景に進められています。4月下旬には政府軍と反政府勢力との戦闘激化によって緊急退避が行われ、しばらくの間ローカルスタッフだけで現地の活動を続けるという状況になったこともありました。また実際の作業に関して、現地のローカル NGO に依頼して遂行している活動もあります。いろいろな意味で、現地の力にフォローを受けていると言えます。この経験は、緑のサヘルが今後の活動実施方法を考える時、良い参考になると考えています。

2005年から始まった新体制ですが、東京、ブルキナファソ、チャドと、それぞれの現場を担当している日本人スタッフが、役割に慣れて来ていることも大きな助けになっています。依然としてフォローアップが充分とは言えませんが、それぞれが柔軟に事態に接し、臨機応変に対応してくれています。緑のサヘルは着実に人材が育ち、層が厚くなって来ていると感じています。

今年 2006 年は緑のサヘルにとって、次の段階に向けた階段を上るための経験を着実に蓄積した年だったと言えます。



(担当；佐藤 裕美)

アベシエ地域環境保全事業：UNHCR パートナー事業 (2006 年 8 月～10 月)

雨季である 8 月から 9 月にわたり、ファルシャナ、ハジャラハジッドの両サイトで本格的に苗木配布を行いました。アベシエ地域では 10 月に入ってから 2 度激しい降雨がみられましたが、その後は降雨がなく、いよいよ乾季の到来を感じています。

植林後の苗木は、降雨の減少により枯れてしまうものも見られますが、約 90% が活着しており、昨年ほどではありませんが概して良好と言えます。今後も追跡調査を継続し、定期的に灌水をしていく予定です。



また、追跡調査と平行して、植林した苗木が家畜に食べられてしまわないための囲いが設置できるよう、パートナーの NGO や学校、病院といった公共施設にレンガを提供しました。(写真右)

2005 年配布した苗木については、パパイヤなど果実をつけ始めているものもあり、植林の成果が着実に現れてきているようです。(写真左)

改良カマドの普及促進員を難民の中から起用したことによって、難民キャンプにおける粘土製改良カマド作製・使用数が確実に伸びています。一方、UNHCR からの要請により、新しいタイプの金属製改良カマド「save80」の普及活動も、10 月下旬より BCI (現地 NGO 団体) と協同して行われています。(写真右) また、従来の金属製改良カマドについても、平行して使用状況調査を続けています。



先号 27 号でお知らせした、JICA との協力事業「アベシエ市における環境教育プロジェクト」においても、8 月に植林して以来、「Les amis de l'arbre (樹の友：現地 NGO) の協力を得て、追跡調査を行っています。8 月の激しい降雨により、根元に水が溜まって根が腐って枯死した個体はいくつか見られたり、子供のいたずらによって、囲いがあるにもかかわらず引き抜かれたりしたものもありましたが、随時植え直すなどして管理を続けています。概して順調な生育が窺え、現在では高さ 150cm を越え、支柱を当てるほどの個体も多く見られるようになりました。



(担当；水真 洋子)

タカバングウ地域生活保全事業/技術移転事業

(2006年8月～10月)

降雨は9月24日に16mmを観測して以来降っておらず、今年の収穫高は良好とはいえないようです。9月以降、ラマダン（断食月）に入ってから、話し合いに際して各グループとも集まりが悪かったり、疲れている様子も窺えましたが、話し合い中は活発な意見交換も行われ、プロジェクトへの積極的な参画の意志は堅固です。



< 荒廃地回復：男性グループ >

荒廃地回復グループが行っているザイ（穴を穿って穀物や作物の苗を植える農法）の圃場に植えられたソルガム（モロコシ）は、降雨の不足と不順による影響が出始めています。

今年度からザイを始めた圃場では葉や茎が黄色に変色しているものも少なくありませんが、昨年度からザイを実施している圃場では変色している苗はあまり見られません。この違いは次第に大きくなりつつあり、降雨不足によって奇しくもザイによる土壌回復効果が確認された結果となりました。

←06年掘削圃場（前）と05年掘削圃場（後）



< 石鹼作り：女性グループ >

近隣の先行グループの方法を学ぶことによって、より廉価に石鹼が作製できるようになりました。これまで村内の3地区で石鹼の販売を行って来ましたが、各地区で在庫が少なくなってきたのを確認し、10月に100個の石鹼を作製しました。現在の一番の問題は、正確な利益計算ができていないことです。

(写真左)

< 果樹園作り：青年グループ >

以前、果樹栽培が行われている敷地は金網で囲われていましたが、土地の所有者が果樹の手入れができなくなって以降は、取り外されてしまいました。現在もよく成長した生垣に囲われてはいますが、ところどころに隙間が空いているため、人や家畜が簡単に出入りできます。果樹はどれも非常に立派に成長していますが、3年近く放置されているため、剪定などの手入れが必要な状態となっています。

青年グループは今年、同敷地内の空いている部分への補植と、両サイドへの敷地拡張を予定しています。既存の井戸がありますが、新たに一本掘削することも検討されています。

活動報告3

国内活動

★ アフリカン・フェア 出展 (06年9月2日、3日、4日)

夏休みを少し延長し、お台場の東京ファッションタウンビルで、アフリカにゆかりのある企業やNGO、アフリカ各国の大使館も軒を連ね、ファッションショーやアフリカン・ミュージックのコンサート、著名人を迎えるトークショーなど、催しも交えて賑やかに開催されました。

初日のレセプション・パーティーでは、小泉前総理大臣も見え、出展する側も大いに盛り上がりました。また、日本の外務省から招聘を受けたチャド共和国政府の代表者の方とお話する機会もあり、緑のサヘルの現在の活動や、今後の見通しに対し、積極的に協力していきたいとのご意見を伺うことができました。(写真は緑のサヘルのブースの様子)



主催：経済産業省、日本貿易振興機構（ジェトロ） 後援：外務省、社団法人アフリカ協会

★ wa! 異国の風号 地球旅行 ～第一回ブルキナファソへの旅～ (06年9月9日と10日)

夢の実験室<wa!>主宰のもと、在日ブルキナファソ大使館の後援を頂いて、「日本ブルキナファソ友好協会」「ハンガーフリーワールド」「ブルキナファソのストリートチルドレンを支援する会」「緑のサヘル」といったNPO・NGO団体がコラボレーションし、イベントが開催されました。

既にブルキナファソを知っている方、名前すら知らなかった方など、来訪者も予想以上に多く、「通りすがりに寄ってみたが、大変素晴らしいイベントでした」という感想もたくさん頂き、訪問した方もお迎えした側も大満足の結果を得ることができました。

お料理やブルキナファソの紹介映像、紙芝居やショート・ライブなどを通して、楽しくブルキナファソに親しめる2日間となりました。



*ちょっと紹介 <wa!>って何？

大地の恵みや、美しい自然、人とのコミュニケーション、アート、遊び、好奇心等、地上のさまざまな喜びをいろいろな形で分かち合い、みなさまからも、大地、自然、世界の人々などへ、何か自分らしいメッセージやアクションを発信していただくための、自由で、ホンワカした「夢の実験室」です。

★ アフリカ農業支援シンポジウム パネリスト出席 (06年9月12日)

10月16日の世界食料デーを前に、東京・渋谷区の国連大学にて「アフリカ農業支援シンポジウム」(主催：国際農林業協力・交流協会)が開催され、NGOの立場からの意見提示を行うべく、菅川がパネリストとして参加いたしました。(10月22日読売新聞 掲載)

2007年 ☆ 緑のサヘルオリジナルカレンダー 大好評販売中 ☆

西アフリカの力強く個性豊かなエスプリを、お部屋に飾ってみませんか？

2007年度・緑のサヘルオリジナルカレンダーは、ご家族やご友人へのプレゼントとしても、多くの方に喜んでいただける楽しい仕上がりになっています。

今年は少し赴きを変えて、カラフルでユニークなレストランの表紙から始まり、素敵な笑顔や素朴で雄大な自然の力強さに出会いながら、西アフリカ諸国を1年かけてぐるっとひと巡り。



左は4月の、右は8月の写真です。実物は色あざやかに、とても素敵な仕上がりになっております。

1冊 1000円の売上です

- * 苗木を **30本**植えることができます。
- * 薪の消費量を半減できる**金属製のカマドを、一世帯に取り付ける**ことができます。

＜このカレンダーは、こちらのお店でもお買い求めいただけます＞

青山ブックセンター 本店
紀伊国屋 新宿本店
ジュンク堂 池袋本店
LIBRO 池袋店

オリオン書房 立川アレア店
東西哲学書店 国立店
TSUTAYA 帝京大学前店
東京大学生協 本郷書籍部

八日市図書館（滋賀県）、緑のサヘル東京事務局でも、直接お買い求めいただけます。

また、インターネット上ではアフリカスクウェア、緑のサヘルのホームページからでもご購入いただけます。

＜既にお買い求めいただいた方へ＞

たくさんのご注文、ありがとうございました！

「注文したけれど、まだ届いていない」など、

疑問・ご質問等がございましたら、お気軽にご連絡ください。



今年のクリスマス・プレゼントは、緑のサヘル カレンダーで♪

ありがとうございました

【 新規会員の皆様 】

内田 修一 / 増田 浩二

【 継続会員のみなさま 】

井上 幸子/手嶋 康/曾山 卓司/佐々木 修一/下野 國夫/佐々木 仁/浅輪 重信/橋口 日出夫/
天野 洋子/山田 静子/佐々木 順子/古川 フミ子/中野 純子/伊藤 春男/寺川 幸士/竹内 信/
塩沢 拓夫/河合 令子/小池 昌子/高橋 聖子/猪股 満希子/佐々木 セツ/石本 雄大/中野 晃治

【 ご寄付を頂きました。ありがとうございました。 】

原口 恵/小鹿 敬司/森口 修/加藤 正博/小枝 清子/碓井 道子/手嶋 康/山崎 徹也/
高野 賢一/小山 彩子/江川 譲二/名嘉 忍/本沢 朋美/小林 伸張/松本 フミ/
田中 薫/三浦 貞彦/黒河内 康/伊藤 春男/村上 和代/山本 淑子/
猪股 満希子/皿江 恵子/鈴木 潤/ (株) INAX 139名/匿名 12名

【 助成団体からの助成金 】

日本経団連自然保護基金 / 毎日新聞東京社会事業団 / 財団法人 地球市民財団

(敬称略、入金順)

上記は2006年8月1日から2006年10月31日までにご支援頂いた方のご芳名であり、2006年11月1日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。また、ご芳名の掲載につきましては、お名前の公開を承諾された方のみを掲載させて頂いています。あらかじめご了承下さい。

* 住所変更などによる、ニュースレターの不着及び返却が増えています。お引越しや町村合併などによりご連絡先が変更になる場合は、お手数ですが事務局までご連絡ください。

● お話させて頂きました。

8月25日 FM COCOLO (電話にて取材)
10月26日 埼玉県鳩ヶ谷市立 里中学校 (緑のサヘル事務所にて)
10月31日 岩手県盛岡市立 下橋中学校 (修学旅行宿泊先にて)

♪ 事務所訪問や講師派遣のご依頼は東京事務局までお気軽にお問い合わせください ♪

< 緑のサヘル スタッフよりひとこと >

ご寄付を頂くとき、そしてカレンダーをご注文頂くときなどに皆様から頂戴する、ご感想や励ましのお言葉、ご質問等、いつもありがたく拝見しております。活動を遂行するにあたって参考になるご意見、大変なときにこそ再び「頑張ろう」という気持ちを奮い立たせてくれる言葉、本当にありがとうございます。尚、ご質問については、来月号でお応えしたいと考えております。お楽しみに！

おしらせ

書き損じ葉書で国際協力しませんか？

書き損じ葉書、使わなかった古い年賀状などを大募集しております。1枚でもかまいません。どうぞ緑のサヘルにご寄付下さい。いただいた葉書は、新品と交換もしくは換金し、活動に利用させていただきます。

絵葉書 プルキナファソからの便り

第47回産経児童出版文化賞受賞の小松義夫氏による緑のサヘル特製プルキナファソ絵葉書も発売中です。

穀物を風で選り分ける婦人の姿が特徴的なAセット、タカバングウ村の少女も収められたBセットの2種類があります。また、今年からは一枚からでも販売しております。ご注文は緑のサヘル事務局までお願いいたします。なお、売上は活動費に充てられます。

価格400円/1セット(4枚)
100円/1枚

郵送ご希望の場合、郵送料は別途申し受けます。

2007年 緑のサヘル オリジナルカレンダー

お待たせいたしました！毎年好評をいただいている『2007年 緑のサヘル オリジナルカレンダー』の本体が完成いたしました。お申し込みも続々頂いております。詳しくは6ページのお知らせをご覧ください。

【目次】

- | | |
|---------------|-------------|
| 1…表紙 | 5…国内活動 |
| 2…環境省委託事業報告 | 6…カレンダーお知らせ |
| 3…チャド活動報告 | 7…ありがとう |
| 4…プルキナファソ活動報告 | 8…お知らせ |

<編集後記>

●7月にチャドから帰国、8月に岩手講演旅行、10月はプルキナファソ調査、11月は岩手講演旅行Part2、12月にはまたまたチャド出張。心身ともにきついけど、まだまだ頑張れます！…でも、時差と気温差はかなり堪えるようになりました。やはり歳ですかね？(菅川)

●高く澄んだ空を仰げば、秋風吹きすさぶ陽気に、なんととはなしに寂しいような気分になります。うーん、神田にも移動やきいも屋さんの誘惑コールが…。さて、今秋前半はイベント続きでカレンダーも到着！仕事山もり、お留守番続きなのになんとかかんとか無事山を越えることができました。これもひとえにボランティアさんと日頃ご支援いただいている皆様のおかげです・多謝！（佐藤）

ご贈答品・お歳暮どうぞ

ハケ岳農場の特産品

ハケ岳中央農業実践大学校の特産品がさらに充実しました。これまでの手作りチーズとアイスクリームに加えて、チーズケーキ、カレー、ソーセージなどハケ岳の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々が勢揃いの10セットです。各地への送料を含めた価格は下記の表にございます。大学校のご厚意により、お求めごとに定価の20%が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】 郵便振替用紙にご依頼人様とお届け先様のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振り込みください。

00140-9-50425「緑のサヘル」

お振り込みから到着まで10日程かかります。

		関東 北陸 南東北	信越 中部 東北	中国	四国	北海道 九州	沖縄
A	アイス10個	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
B	アイス20個	6,400	6,500	6,610	6,710	6,810	7,020
C	チーズ	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
D	アイス / ケーキ2種	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
E	ムース	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
F	ケーキ	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
G	カレー / チーズ	5,000	5,100	5,210	5,310	5,410	5,620
H	ケーキ2種	3,230	3,330	3,440	3,540	3,640	3,850
I	カレー	3,580	3,680	3,790	3,890	3,990	4,200
J	チーズ / ソーセージ	5,730	5,830	5,940	6,040	6,140	6,350

内容の詳細は同封のチラシをご覧ください。

* チラシの価格には送料が含まれていません。送料込みの価格は、上記の表をご参考にしてください。

La Forêt, C'est la Vie ! Vol.28

編集 菅川 拓也 佐藤 裕美 / 発行 菅川 拓也 / 発行所 緑のサヘル / 印刷 社会福祉法人 東京コロニー

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町16番地 田澤三ビル3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041

HomePage : <http://www.jca.apc.org/~sahel/> E-mail : sahel@jca.apc.org